

事業計画書

事業名	かがやけファーム事業（継続）
実施場所	沼津市足高地内
実施予定期間	平成30年4月2日～平成31年3月31日

◎実施内容

日程	実施項目・作業項目	
	<p>H28年度から開始した事業であり、今回で2期目となる。</p> <p>当初1箇所の農地から開始した事業であるが、新たに近隣農地の所有者から依頼された農地も増え、現在のところ3箇所の農地を開墾しているところであり、今後も同様な依頼が増えてくる見込みである。</p> <p>そのため、これら農業の継続が困難となっている農家と協力し、耕作放棄地を活用する組合組織（農業委員会と協議が必要）を構築し、これまでと同様に障がい者の就労の場としての機能を保ちつつ、農業生産者支援制度（会員に対して農産物を配送し農家と消費者を直接つなぐシステム）に加え、新たに消費者自身が欲しい作物を自分で収穫し購入していく、収穫体験と販売を兼ねるシステムを構築し市民の就農意欲の醸成を図るものとする。</p> <p>同事業の実施に伴い、現況農地1ヶ所に窓口並び作業所としての農機具小屋の設置を行っていく。</p> <p>【全体スケジュール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人スタッフ：5人 ・障害者雇用：5人（農作業：週2回 12ヶ月 計96日 会員への配送梱包：4ヶ月に1回 / 年4回 合計100日） 	
月	活動内容	参加者数
4月	・収穫祭（こどもの日親子参加募集）実施計画・収穫及び会員への配送	20件
5月	・こどもの日親子収穫祭	一般 20名
6月	・耕作及び作付け作業・農業者支援会員の募集	10件
7月	・夏休み農業体験実習参加者募集	一般 20名
8月	・夏季収穫物会員向け・夏休み家族農業体験実習	30件
9月	・収穫及び会員への配送・秋物野菜の種植え	
10月	・一般者農業体験実習	一般 15名
11月	・一部冬季種付け	
12月	・暮、正月用収穫（一部）	
1月	・春物野菜の種植え	
2月	・農閑期・土作り・春物苗植え付け	
3月	・春野菜収穫準備・農業体験教室実施	一般 20名

◎事業効果

※事業の効果を記載して下さい。

ソフト部門のステップアップ型事業・ハード部門4事業については、事業効果に対して、客観的な評価ができるよう、成果指標と数値目標を設定するなど、その検証方法を必ず明記して下さい。

農業の継続が困難となっている農家と協力し、組合組織を作り一般市民との交流の機会を作る。とれたて野菜の販売だけではなく、欲しい作物を一般の方々自身で収穫し購入する新たなシステムを設ける事で、農業の体験も出来る。現況農地1ヶ所に窓口並び作業場並びに作業としての農機具小屋の設置をする。又、農業会員の拡充を図り、収穫野菜等の配送や販売に係る袋詰めや箱詰め等、補助的な作業をする作業場を設置する事で、障害者雇用の促進を実施する場の提供となり、就労継続支援B型事業所としての認定を受ける。

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを確認して下さい。

<p>公益性</p>	<p>※不特定多数の住民の利益の増進、地域のまちづくりの推進に寄与する事項等を記載して下さい。</p> <p>これまでは愛鷹山附近の耕作放棄地農地を数箇所耕作し収穫できるまでにしてきたが、まだまだ周辺には多くの放棄地があり、又後継者不足の農家からも人材不足から依頼されている。従って、本計画では周辺一帯を「あしたか農業村」と総称し、公益的に協働組合を創設することで、更に一般者に農業との係りを持つ事ができる機会を作り、人材不足や連帯感を持つことでこれ等の解消をすることでできる。</p>
<p>発展性</p>	<p>※活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。</p> <p>放置地・農地としての活用のみならず、種々の体験の場とし、又地権者の後継者不足、活用法、アイデア等を提供し、共同化も実現できる。民間には自然や土に触れる機会を再構築し、教育の場『社会教育』として当法人が目指す理念・趣旨(活動プログラム)を進めて行ける。更に愛鷹山周辺の地を教育環境として広域に位置づける。近隣に運動公園、免許センター等があり、施設地としての可能性は大である。立地として売りこめる。</p>
<p>地域性</p>	<p>※地域の実情・課題の解決に向け工夫した点、地域資源の活用などについて記載して下さい。</p> <p>地域的に農地地区で、ほとんどの農家が後継者不足で管理委託を余儀なくされている事で、公共的にビジョンを打ち出せば周辺農業者との共同化を図れる。又、農地としてだけではなく、農家と消費者を直接つなぐ交流の場、農業にチャレンジしたい人の農業体験の場や障害者の就労支援及び社会参画の場、子供たちの社会経験の場として有効活用することで、地域の活性化に繋がる。</p>
<p>必要性</p>	<p>※事業を実施する意義や、補助金の交付が有益で質の高い事業展開につながる理由について記載して下さい。</p> <p>耕作放棄地としての将来性防止は急務である。しかし、農地を障害者の就労体験の場の提供や子供たちの社会教育の場として活用する選択肢は有効である。更に今、中心地のコミュニティが不足している中、周辺地域と連動する第二のコミュニケーションを考え、広域的にトータルで発動する広報活動費の確保総合施設地域の必要性を一般向け説明会、セミナー等を実施して行く。</p>
<p>先導性</p>	<p>※事業の新規性や独自性など、工夫した点について記載して下さい。</p> <p>地権者への関わり合いを作る意味でも、現在抱えている管理農地を正常化させ、一般者とのコミュニケーションを構築することで、地権者に柔軟性を持って頂き、次のビジョンの関心を深め次世代農家の若者への魅力とやる気に繋げて行く。支援会員のシステム構築を進める。従って、様々な立場の人達が関わることで、地域の課題解決の一端の担う農地のあり方を提唱している。</p>

<p>継続性</p>	<p>※助成事業終了後も継続的・自立的な活動とするために、どのように取り組んでいくかについて記載して下さい。</p> <p>進行している事業が起動に乗ってきたことで重要なのは会員増大と、本事業に関心を持ち係り合いに成って頂ける人材の確保にある。現在法人会員数、120名で農業支援会員が30名、今後急速に増員し、200名を目指して行く。又、障害者自立支援法の就労継続支援B型事業所として認定するような今期必達したい。</p>
------------	---

◎特に高い公益性を有することの説明

※補助金申請額が「特に公益性が高い事業」に該当する場合は、その理由を記載して下さい。

当法人がリーダーシップを取り、周辺地域農業者とのコラボレーションと障害者・高齢者の活動場所が拡大し、更に一般市民への農業関心と土に触れる機会を創る事が出来、あしたか山及び運動公園周辺の活性化が見込まれる。更に、若者の農業関心への機会となり、農業が日常的なものとしての認識が高められる。